別紙様式5

令和5年度　　学 校 評 価 表　　（中間評価 ・ 最終評価 ）　　東広島市立龍王小学校

学校教育目標	夢と志をもち，未来を切り拓く子どもの育成	経営理念	学校内外の教育環境を最大限に活用し，次世代を担う人づくりを行うとともに，地域とともに発展する学校を創る。

評価計画							自己評価					学校関係者評価		改善方策
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値 10月	達成値 月	達成度（10月）	評価（10月）	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
確かな学力の向上	1	自ら学ぶ子どもの育成	主体的に取り組む児童の育成	主体性の育成に係る実践研究	・児童アンケート ・教職員アンケート	肯定的評価：85%以上	肯定的評価：88%		103.5%	3	児童アンケートによると，解決したい課題に対して「なぜだろう」「知りたい」と答えた児童が88%，学習の終わりに「もっと考えてみたい，調べてみたい」ことがあり，自分から進んで学習に取り組んでいると答えた児童が80%だった。概ね主体的に学習に取り組もうとしている児童が多い。「ほとんど，まったくできていない」と答えた児童は昨年度10%程度いたが，今年度は4%にまで減った。	A	ノーメディアタイムの取組も，児童が主体的に学ぶための一手段と考え継続してもらいたい。学校だけでなく，保護者や地域とも目標を共有し連携して児童の主体性を養ってもらいたい。	(1)課題解決につなげるモジュール学習を継続して計画的に実施し，基礎学力の向上を図る。 (2)授業研究を中心にICTの効果的な活用による思考力・表現力を高めるとともに，主体的に学習に取り組めるよう，家庭にも呼びかけていく。 (3)ノーメディアタイムを継続実施し，保護者や地域と連携した児童の主体的に学ぶ態度の育成を図る。
			基礎学力の定着	個別プリント・タブレットドリル学習の推進	・業者テスト国語（知識・理解） ・業者テスト算数（知識・理解）	85点以上の児童80%	国語80% 算数84%		国語100% 算数105%	3	全学年で単元末テストの知識・技能が85点以上は国語80%，算数84%で目標を達成した。しかし，各クラスや学年間で差が大きく，基礎的な部分（国語では漢字の書きや言葉の習得，算数では計算）で課題がある児童もいる。	A	授業において，児童が集中して学んでいる様子がうかがえる。基礎学力向上の最大の取組は日々の授業と捉え，引き続き授業改善を進めてほしい。	
豊かな心の育成	2	思いやりのある子どもの育成	あいさつの定着	児童会，PTA，地域との連携・協力	・児童アンケート ・保護者アンケート	肯定的評価：80%以上	児童86% 保護者57%		児童107.5% 保護者71.3%	2	児童アンケートでは，あいさつに対する肯定的な回答は86%であった。しかし，保護者アンケートでは，家庭内でのあいさつに対する肯定的な回答が85%あるものの，児童のあいさつに対する肯定的な回答は57%にとどまった。このことから，あいさつ運動を続けて習慣化を図りつつ，あいさつの在り方を児童に考えさせる必要がある。	N	あいさつに関わり，児童と保護者の肯定的評価に対する評価に大きな差が見られる。あいさつについて皆が目指す姿を明確にする必要がある。	あいさつをすることの大切さやどのようなあいさつがよいのかを全校児童に考えさせた上で，引き続き[R.G.P(龍王グリーティングプロジェクト)の取組を行う。その際，地域・保護者への参加を呼びかけ，地域・保護者と学校が一体となって取り組めるものへと発展させていく。
			支持的風土の醸成	・異年齢集団活動の推進 ・児童会活動の充実	・保護者アンケート ・児童アンケート	肯定的評価：95%以上	保護者96% 児童94%		保護者101% 児童99%	3	児童アンケートでは，友達の気持ちを考えて過ごす児童が94%であった。保護者アンケートでは，思いやりの心が育っていると回答する保護者が96%であった。異学年集団での活動や児童会活動が，思いやりの心を育む一助になっていると考えられる。今後は児童主体の活動を一層増やしていき，さらなる支持的風土の醸成を図っていく。	B	このような大規模な学校において，異学年集団での活動を計画し実行することは大変だと思うが，大きな成果が見られており継続してもらいたい。	(1)引き続き，縦割り班遊び「龍王の絆」を中心とした異学年で関わる機会を設定するとともに，取組内容の充実を図る。 (2)「6年生を送る会」等，児童が主体となって企画・運営できる児童会行事を推進する。
健やかな身体の育成	3	自ら安全や体力向上を意識して生活できる子どもの育成	食育の充実	食育指導の充実	・残菜率	4%台	平均：5.5%		72.7%	2	残菜率は，4月：4.5%，5月：7.1%，6月5.8%，7月：5.0%，8.9月：5.1%であった。平均5.5%と目標値を下回っていたが，完食キャンペーン期間中は，3.2%まで減少していたため，意識が継続するように取り組みを続けていく。	B	児童が残食を少なくすることを意識することによって残食率の減少が顕著である。児童の意識を高めるための継続的な取組を家庭と連携し進めてほしい。	完食キャンペーンを実施し，その成果を学校全体で共有するとともに，食育指導や校内掲示を継続して行い，食に対する児童の意識向上を図る。
			体力の向上	・外遊びの励行 ・固定遊具等を活用した体育授業の工夫 ・家庭でも行える運動の推進と充実	・新体力テスト課題種目（50M走，握力）結果 ・児童アンケート	・前年度値以上 ・肯定的評価90%以上	男子：27：% 女子：37% 肯定的評価：88%		体力32% 運動興味97.8%	1	新体力テストでは，前年度以上が男子は27%，女子は37%と，男女ともに，前年度の値を大幅に下回っていた。 学校生活アンケートでは，外遊びが楽しいと感じている児童が88%であった。外遊びについては，「何をすればいいか分からない」「めんどくさい」などの理由で，校舎内で過ごしている児童も多くいたため，外遊びの機会を仕組み，増やしていく必要性を改めて感じた。	N	体力向上については学校全体の課題として取組を進める必要がある。評価の指標として前年度比較では正しい傾向が掴めないと思うので，全国平均値を基準として評価を見直すことについて検討してほしい。	(1)ロング昼休憩やドッジボール大会，縄跳び強化週間，持久走強化週間等を計画・実施し，児童個々が目標をもって体力向上を図ることができる機会を継続的に行う。 (2)スポーツ委員会主催の活動を計画・実施し，主体的に運動に親しむ態度を育成する。
働き方改革の推進	4	業務改善の推進	児童と向き合う時間の確保	・学校行事等の精選 ・学校支援者の積極的導入 ・保護者・地域・学校の協働	・教職員アンケート	肯定的評価：80%以上	82.6%		103.3%	3	教務主任を中心にした分掌や行事の見直し及びスケジューリングにより，組織的で効率的効果的な業務遂行への職員の意識改革は着実に進んでいる。反面で，主任層を中心にした一部の人間に負担が偏っている傾向が見られる。ネクスト主任層や若手教員の人材育成や学校運営の参画意識向上を図っていく必要がある。	A	管理職等による主任層への人材育成及び主任層への働きかけにより，組織的な業務遂行が進んでおり高く評価できる。今後は，副主任層の育成を進めることで更に組織力を高めてもらいたい。	(1)主任層等一部の人間に業務が集中していることへの対策を講じる。 (2)業務(行事・会議・連携・資料作成・研修等）目的の一層の明確化を図る。 (3)来年度に向けた教職員個々の専門性がより一層発揮できる組織編制の検討を進める。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
4…目標を上回って達成　　3…目標どおりに達成
2…目標をやや下回って達成　　1…目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価
A…とても適切である　　B…概ね適切である
C…あまり適切でない　　D…全く適切でない
（N…判定できない）